



2024年2月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年4月11日

上場会社名 株式会社クリーマ 上場取引所 東
 コード番号 4017 URL <https://www.creema.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 丸林 耕太郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 コーポレート (氏名) 伊藤 彩紀 T E L 03(6447)0105
 ディビジョンGM
 定時株主総会開催予定日 2024年5月23日 配当支払開始予定日 -
 有価証券報告書提出予定日 2024年5月24日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト・個人投資家向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期の連結業績（2023年3月1日～2024年2月29日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期	2,508	0.4	41	-	68	-	79	-
2023年2月期	2,500	8.9	△385	-	△384	-	△408	-

(注) 包括利益 2024年2月期 79百万円 (-%) 2023年2月期 △407百万円 (-%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年2月期	11.76	11.63	8.3	2.0	1.7
2023年2月期	△60.85	-	△36.5	△10.5	△15.4

(参考) 持分法投資損益 2024年2月期 -百万円 2023年2月期 -百万円

(注) 2023年2月期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年2月期	3,588	1,000	27.9	148.47
2023年2月期	3,433	919	26.8	136.70

(参考) 自己資本 2024年2月期 999百万円 2023年2月期 918百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年2月期	113	4	137	2,632
2023年2月期	△320	△91	△169	2,374

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年2月期	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-
2024年2月期	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-
2025年2月期(予想)	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点において、2025年2月期の配当予想額は未定であります。

3. 2025年2月期の連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,712	8.1	121	192.9	124	80.5	91	15.2	13.54

- （注）1. 「1株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2024年2月29日現在の発行済株式数（自己株式数を除く）を使用しております。
 2. 当社は年次での業績管理を行っておりますので、第2四半期（累計）の連結業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

（1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 ② ①以外の会計方針の変更：無
 ③ 会計上の見積りの変更：無
 ④ 修正再表示：無

（3）発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数

2024年2月期	6,733,100株	2023年2月期	6,721,100株
2024年2月期	43株	2023年2月期	43株
2024年2月期	6,728,401株	2023年2月期	6,710,730株

（参考）個別業績の概要

2024年2月期の個別業績（2023年3月1日～2024年2月29日）

（1）個別経営成績（2023年3月1日～2024年2月29日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期	2,483	0.1	77	—	37	—	47	—
2023年2月期	2,480	8.8	△333	—	△412	—	△458	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期	7.13	7.04
2023年2月期	△68.34	—

（注）2023年2月期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

（2）個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年2月期	3,507	955	27.2	141.86
2023年2月期	3,383	906	26.8	134.74

（参考）自己資本 2024年2月期 955百万円 2023年2月期 905百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2024年4月11日（木）にSBI証券のウェブサイトにて機関投資家・アナリスト・個人投資家向けの説明会をライブ配信で開催し、決算補足説明資料を当社のウェブサイトにて公開します。

また、決算補足説明資料を日本取引所グループウェブサイト上の「適時開示情報閲覧サービス」に掲載します。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
連結損益計算書	7
連結包括利益計算書	8
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(セグメント情報等)	12
(1株当たり情報)	12
(重要な後発事象)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当社グループでは、「まるくて大きな時代をつくろう」を企業理念に、その実現に向けた第一弾の事業として、クリエイターエンパワーメント事業を推進しております。

日本ならびに中国語圏におけるグローバルハンドメイドマーケットプレイス「Creema(クリーム)」に加え、「Creema」と連携可能な唯一のネットショップ開設サービス「InFRAME」の運営を行うマーケットプレイスサービス、「Creema」のプラットフォームを活用し、出店クリエイター・企業・地方公共団体のマーケティング支援を行うプラットフォームサービス、日本最大級のクリエイターの祭典「HandMade In Japan Fes'（東京ビッグサイト）」等の大型イベントを展開するイベントサービス、さらには、クリエイターの創造的な活動を応援することに特化したクラウドファンディングサービス「Creema SPRINGS」、人気アーティストのレッスン動画プラットフォーム「FANTIST」等、クリエイターの活動を支援するサービスを様々な角度から展開し、まだ見ぬ巨大なクリーム経済圏の確立と、クラフトカルチャーの醸成に力を注いでおります。

マーケットプレイスサービスにおいては、入園入学といったライフイベントや、母の日やクリスマス等の季節のトレンドを捉えた各種マーチャンダイジング・キャンペーン施策を展開する等、クリエイター作品の魅力を訴求する様々な企画を実施しました。また「Creema」のユーザーインターフェース改善、検索機能の拡充、インフラ基盤の強化をはじめ、プロダクト面においても多面的な強化を推進しました。さらに、「Creema」及びハンドメイドマーケットプレイス市場の認知拡大を目的に、前期より今期3月にかけてTVCMを複数回放映してきましたが、並行してデジタルマーケティングの改善によるROASの向上にも取り組み、当該サービスの広告宣伝や販売促進に係るプロモーション費用を前年同期比57%まで大幅に圧縮することができました。加えて、日本最大のハンドメイドマーケットプレイス「Creema」と連携可能な唯一のネットショップ開設サービス「InFRAME」を2024年1月末にリリースしました。一方で、前期に大規模に実施していたTVCM効果の反動に加え、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う外出需要の追加拡大（リオープンング）による影響が想定以上に大きかったことも重なり、マーケットプレイスサービスの流通総額は165.8億円（前期比99%）、売上高は1,602,840千円（前期比98%）で着地し、僅かに前年実績を下回る結果となりました。なお、当連結会計年度におけるクリエイター数は約27万人、登録作品数は約1,769万点、スマートフォンアプリのダウンロード数は約1,481万回を突破しております。

プラットフォームサービスにおいては、「Creema」のプラットフォームならびにユーザー基盤を活用した企業・地方公共団体向けのPR支援を行う外部広告サービスにて、大手商業施設とコラボレーションしたクラフトイベントの開催や、海洋プラスチックごみの一因とされる“廃棄漁網”をアップサイクルするSDGsプロジェクトの実施、地方自治体と連携した各種地方創生プロジェクト等、当社にしかできない様々なPR企画をクライアントに対し提案・実現してきました。また、クリエイターが自身の作品を「Creema」上でプロモーションできる内部広告サービスでは、広告サービスの利用者数を増加させるべく、プロダクトの改善とその普及に努めました。その結果、プラットフォームサービスの売上高は683,592千円（前期比108%）での着地となっております。

イベントサービス（旧イベント・ストアサービス）においては、2023年7月22日・23日、及び2024年1月13日・14日に、日本最大級のクリエイターの祭典「HandMade In Japan Fes'」を開催し、多くのクリエイター・来場者の方々にご参加いただき、コロナ前の全盛時に近い水準にまで活況を取り戻すことができました。一方で、前期には、2023年1月をもって全店閉店となったストアサービス（Creema Store）の売上が計上されていたこと、また今年度の開催を見合わせた音楽とクラフトの野外フェスティバル「Creema YAMABIKO FES」の売上也計上されていたこと等から、今期はその売上分の下方圧力があり、売上高は141,658千円（前期比69%）で着地いたしました。なお、今年度の開催を見合わせた「Creema YAMABIKO FES」については、来年度の2024年3月16日・17日に、時期・会場を変更して開催いたしました。

当社グループの中長期的な成長を企図し、戦略的な先行投資を拡大している新サービス群では、クリエイターやものづくり事業者の創造的な活動を応援することに特化したクラウドファンディングサービス「Creema SPRINGS」において、引き続き多様なプロジェクトが起案され、その多くが目標支援金額を達成しております。また、クリエイターがレッスン動画を販売する動画プラットフォーム「FANTIST」においては、参加クリエイター数・出品動画数ともに順調に成長していることに加え、初心者向けに体系的なレッスンを提供するコースレッスン動画も順調に拡張いたしました。結果として、売上高は80,872千円（前期比255%）と大幅な成長を続けています。これら全てのサービスを連携させることにより、ユーザー価値の最大化を図ると同時に、当社グループのサービスの認知度向上及び市場の拡大、クリーム経済圏の確立に取り組んで参りました。

その結果、当連結会計年度における全社業績については、売上高は前年同期比100%となる2,508,966千円で着地いたしました。また、期初開示の通り、今期は新規事業領域及びシステム領域への成長投資を継続、拡大させておりますが、営業利益は41,436千円（前期から427,083千円の増益）、イベントサービスやプラットフォームサービスに係る補助金収入が計上された関係で経常利益は68,923千円（前期から453,640千円の増益）、直近の事業計画を踏まえ、繰延税金資産を計上した関係で親会社株主に帰属する当期純利益は79,143千円（前期から487,462千円の増益）となり、いずれも前年同時期との比較では大幅な増益となっております。

なお、当社グループでは、クリエイターエンパワーメント事業の単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末における総資産は、3,588,127千円となり、前連結会計年度末に比べ154,638千円増加いたしました。主な増減要因は、売掛金が24,602千円、未収消費税等が39,904千円、ソフトウェア及びソフトウェア仮勘定が36,320千円、未収還付法人税等が21,587千円減少した一方で、借入に伴い現金及び預金が257,385千円増加したことによるものであります。

(負債)

当連結会計年度末における負債合計は、2,587,800千円となり、前連結会計年度末に比べ73,717千円増加いたしました。主な増減要因は、預り金が70,152千円減少した一方で、借入に伴い長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が135,914千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は、1,000,326千円となり、前連結会計年度末に比べ80,920千円増加いたしました。主な増減要因は、親会社株主に帰属する当期純利益79,143千円の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ、257,385千円増加し、当連結会計年度末には2,632,228千円となりました。

当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は、113,394千円（前連結会計年度は320,744千円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益の計上68,923千円、未払消費税等の増加65,274千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により獲得した資金は、4,303千円（前連結会計年度は91,247千円の使用）となりました。これは主に、敷金及び保証金の回収による収入4,984千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した資金は、137,538千円（前連結会計年度は169,838千円の使用）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出264,086千円の一方で、長期借入れによる収入400,000千円によるものであります。

(4) 今後の見通し

2024年2月期においては、プラットフォームサービス（前期比108%）および、戦略投資を続けている新サービス群（前期比255%）が力強い伸長を継続し、全社成長を牽引しました。一方で、マーケットプレイスサービスにおいて、前年の2023年2月期に実施した大規模なTVCMの反動影響に加え、新型コロナウイルス感染症の5類移行（2023年5月）を境とする外出需要の更なる追加拡大（リオープニング）による反動影響が想定以上に大きく、「Creema」は厳しい環境下での事業運営となりました。結果として、当連結会計年度における流通総額は165.8億円（前期比99%）、売上高は1,602,840千円（前期比98%）となり、僅かながら前年を下回る結果となりました。しかしながら、そのような逆風の中であってなお、年間の流通規模は165.8億円と引き続き業界No.1であることを前提に、国内ハンドメイドマーケット市場におけるマーケットリーダーとしてのポジションはより一層強固なものとなりました。また、イベントサービスにおいては、年2回開催した大型イベント（HandMade In Japan Fes'）は期初の予算以上の実績とはなったものの、前期には2023年1月をもって全店閉店となったストアサービス（Creema Store）の売上が計上されていたこと、また今年度の開催を見合わせた音楽とクラフトの野外フェスティバル「Creema YAMABIKO FES」の売上也計上されていたこと等から、今期はその売上分の下方圧力があり、当連結会計年度の売上高が141,658千円（前期比69%）となっています。

その結果、2024年2月期連結会計年度の連結売上高は2,508,966千円（前期比100%）となり、成長が横ばいとなりました。

一方で、コスト面においては、2024年1月末にリリースされたネットショップ開設サービスの「InFRAME」に係る開発投資など、中長期的な成長を企図した投資は大胆かつ計画通り継続しつつも、網羅的なコストコントロールに取り組み、当初の想定よりも大幅にコストを圧縮することができたことから、2024年2月期連結会計年度の営業利益は41,436千円（前期比427,083千円増）、経常利益は68,923千円（前期比453,640千円増）、当期純利益は79,143千円（前期比487,462千円増）となり、売上こそ前年比横ばいとなりますが、各利益についてはいずれも大幅な増益となりました。

このような逆風にあつてなお、売上規模の維持と利益の大幅成長を続ける中で、今後も当社が持続的かつ非連続的な成長を目指す上では、2025年2月期において、「マーケットプレイスサービスの成長」「利益率の改善」「新規事業の成長促進」の3つが当社の戦略課題になると考えています。

マーケットプレイスサービスは、当社のクリエイターエンパワーメント事業の中で、売上・利益の規模が最大、かつその他の事業成長に影響を及ぼす当社の中核サービスです。しかしながら、上述した通り、新型コロナウイルス感染症の5類移行（2023年5月）を境に外出需要が追加拡大（リオープン）した反動影響と、2023年2月期に実施したTVCMを含む大規模プロモーションの反動影響が大きな下方圧力となり、「Creema」の流通総額はその成長率が一時的に鈍化しました。ただし、リオープンによる反動影響も、TVCMの反動影響も、2025年2月期の第2四半期までと想定されるため、マクロ/ミクロ環境ともに第3四半期以降は「Creema」の自力を発揮できる環境が整います。当社全体の成長、競争力の向上を実現するためにも、2025年2月期には、当該事業の再成長に注力する必要があります。

また、2024年2月期は、営業利益で前期比427,083千円増、当期純利益で前期比487,462千円増と、いずれも大幅増益となっています。一方で、利益率を見ると、最盛期の2022年2月期の営業利益率が14%、経常利益率が16%、当期純利益率が10%であるのに対し、2024年2月期の営業利益率は2%、経常利益率は3%、当期純利益率が3%に留まっています。このような利益率の変遷は、将来的な非連続的成長の実現に向けて、新規事業投資やM&A、プロモーションの拡大、外注人員の拡大による開発投資を増額し続けてきたことによるものですが、そのような成長投資を持続的かつ積極的に推進し続けるためにも、今一度当社の利益率を高め、適正利益を確保していく必要があると考えています。

さらに、急成長中のクラウドファンディングサービス「Creema SPRINGS」やレッスン動画プラットフォーム「FANTIST」に加え、2024年2月期末には、ネットショップ開設サービス「InFRAME」も「クリーム経済圏」に新たに加わりました。いずれのサービスも、それ単体で十分な成長ポテンシャルを保持しているとともに、「クリーム経済圏」全体の価値向上に寄与するものであると同時に、全てのサービスが高成長を継続しています。当社の将来の収益基盤強化のためにも、これら新サービスの成長を一層加速させるべく、引き続き戦略投資を継続する必要があります。

「Creema」の流通成長率が再成長軌道にのれば、その周辺事業としてサービス連動しているプラットフォームサービス（内部広告・外部広告等）や新サービス群（クラウドファンディング・レッスン動画プラットフォーム等）も連動して成長速度がさらに加速し、全社の売上が大きく増加します。また、並行してコストの適正化を進めることで、利益率が改善されれば、売上増加も相まって、キャッシュインフローが拡大し、拡大したキャッシュインフローから得た資金を、新規事業やM&Aに投資することで、次の収益の柱を育成し、より大胆に中長期ないし非連続的成長の足場を固めることができます。足元の売上が成長し、利益率・キャッシュフローの改善が行われれば、株主の方々への還元が可能となります。加えて、新規事業による将来的な収益向上が本格的に見込まれるタイミングになれば、尚更そのトレンドは高まると考えています。

これらを実現するため、2025年2月期には、「①マーケットプレイスサービスの成長に向けた顧客基盤の強化」「②コストの適正化、生産性向上による利益率の改善」「③新サービスへの成長投資」の3つを戦略の中心に据え取り組んで参ります。具体的には、①について、検索機能やユーザインターフェイスの大幅改善を始め、顧客の体験品質向上を目的に「Creema」プロダクトの磨き込みを継続して行って参ります。また、「Creema」と補完関係にある「InFRAME」の機能追加ならびに出店拡大戦略に注力し、クリエイターの方々により多くの販路を提供するとともに、「Creema」と「InFRAME」により多くの作品と利用者が集まる状態を構築し、マーケットプレイスサービス全体の価値を高めて参ります。その上で、一定のプロモーションコストを投下し、顧客価値・顧客満足度が一層高まった「Creema」をより多くの方々に体験してもらうことで、「Creema」の顧客基盤をより一層強固なものとし、来期以降の本格成長に向けた足場固めを行います。②については、コスト構成比の中でも割合の大きいプロモーション費について、前期同様、広告効率の改善に取り組み、効果は維持しつつも、金額は前年比で更に縮小させるとともに、次いで規模の大きい人件費・開発関連費および外注費についても抜本的な見直しを行い、組織の生産性を一層高めることで、まずは営業利益率を前期比3倍程度まで引き上げ、来期以降も必然的に利益率が向上していく体制構築を目指します。③については、「Creema SPRINGS」にて営業および編集強化を通じプロジェクトの数と質の更なる向上を進めます。また、「FANTIST」では、プラットフォームに相当量のレッスン動画が蓄積されてきたため、CRMを今まで以上に強化し、レッスン動画の購入率・購入回数・購入単価の改善を進めて参ります。最後に「InFRAME」は、リリース間もないこともあり、今期は機能追加およびプロモーションに集中し、流通・売上成長の先行指標となる登録者数・出品数を着実に増加させ、将来の飛躍に向けた足場を固めて参ります。

これら全ての施策を連携させながら、全体の顧客価値の最大化を図ると同時に、当社サービス及び市場の拡大、

「クリーム経済圏」の確立に取り組んで参ります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当連結会計年度 (2024年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,374,843	2,632,228
売掛金	673,112	648,510
未収還付法人税等	21,587	—
その他	71,835	16,159
流動資産合計	3,141,378	3,296,897
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,696	18,696
工具、器具及び備品	15,255	15,936
減価償却累計額	△9,634	△13,116
有形固定資産合計	24,317	21,517
無形固定資産		
ソフトウェア	148,258	112,671
ソフトウェア仮勘定	732	—
無形固定資産合計	148,991	112,671
投資その他の資産		
敷金及び保証金	118,791	117,057
繰延税金資産	—	39,972
その他	10	10
投資その他の資産合計	118,801	157,040
固定資産合計	292,110	291,229
資産合計	3,433,488	3,588,127
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	194,016	192,276
未払金	211,044	124,409
未払費用	66,148	67,387
未払法人税等	—	44,728
前受金	81,650	77,775
預り金	1,708,767	1,638,614
ポイント引当金	23,072	12,153
その他	36,603	104,948
流動負債合計	2,321,302	2,262,294
固定負債		
長期借入金	187,852	325,506
その他	4,928	—
固定負債合計	192,780	325,506
負債合計	2,514,082	2,587,800
純資産の部		
株主資本		
資本金	539,678	540,490
資本剰余金	1,960,798	1,961,610
利益剰余金	△1,580,886	△1,501,742
自己株式	△228	△228
株主資本合計	919,363	1,000,131
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△610	△457
その他の包括利益累計額合計	△610	△457
新株予約権	652	652
純資産合計	919,405	1,000,326
負債純資産合計	3,433,488	3,588,127

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年3月 1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月 1日 至 2024年2月29日)
売上高	2,500,071	2,508,966
売上原価	591,718	519,610
売上総利益	1,908,353	1,989,356
販売費及び一般管理費	2,294,000	1,947,919
営業利益又は営業損失(△)	△385,647	41,436
営業外収益		
受取利息	107	275
為替差益	—	766
預り金精算益	6,606	6,654
補助金収入	—	23,476
その他	973	3,140
営業外収益合計	7,687	34,313
営業外費用		
支払利息	6,513	6,826
為替差損	243	—
営業外費用合計	6,756	6,826
経常利益又は経常損失(△)	△384,716	68,923
特別損失		
減損損失	20,743	—
特別損失合計	20,743	—
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失(△)	△405,460	68,923
法人税、住民税及び事業税	2,858	29,752
法人税等調整額	—	△39,972
法人税等合計	2,858	△10,220
当期純利益又は当期純損失(△)	△408,318	79,143
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△408,318	79,143

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年3月 1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月 1日 至 2024年2月29日)
当期純利益又は当期純損失 (△)	△408,318	79,143
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	608	152
その他の包括利益合計	608	152
包括利益	△407,709	79,296
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△407,709	79,296
非支配株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（自 2022年3月1日 至 2023年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	536,307	1,957,427	△1,172,567	△228	1,320,940
当期変動額					
新株の発行 （新株予約権の行使）	3,371	3,371			6,742
親会社株主に帰属する 当期純損失（△）			△408,318		△408,318
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	3,371	3,371	△408,318	—	△401,576
当期末残高	539,678	1,960,798	△1,580,886	△228	919,363

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△1,219	△1,219	652	1,320,373
当期変動額				
新株の発行 （新株予約権の行使）				6,742
親会社株主に帰属する 当期純損失（△）				△408,318
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	608	608	—	608
当期変動額合計	608	608	—	△400,967
当期末残高	△610	△610	652	919,405

当連結会計年度（自 2023年3月1日 至 2024年2月29日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	539,678	1,960,798	△1,580,886	△228	919,363
当期変動額					
新株の発行 （新株予約権の行使）	812	812			1,624
親会社株主に帰属する 当期純利益			79,143		79,143
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	812	812	79,143	—	80,767
当期末残高	540,490	1,961,610	△1,501,742	△228	1,000,131

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益累 計額合計		
当期首残高	△610	△610	652	919,405
当期変動額				
新株の発行 （新株予約権の行使）				1,624
親会社株主に帰属する 当期純利益				79,143
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	152	152	—	152
当期変動額合計	152	152	—	80,920
当期末残高	△457	△457	652	1,000,326

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年3月 1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月 1日 至 2024年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失 (△)	△405,460	68,923
減価償却費	31,208	39,068
減損損失	20,743	—
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	3,206	△10,918
受取利息	△107	△275
支払利息	6,513	6,826
補助金収入	—	△23,476
売上債権の増減額 (△は増加)	△49,490	24,602
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△5,400	10,659
未払金の増減額 (△は減少)	114,165	△91,486
預り金の増減額 (△は減少)	87,958	△71,724
前受金の増減額 (△は減少)	7,113	△3,875
未消費税等の増減額 (△は増加)	△39,904	39,904
未払消費税等の増減額 (△は減少)	—	65,274
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△32,125	23,006
その他	22,184	1,733
小計	△239,395	78,240
利息の受取額	107	275
利息の支払額	△6,490	△6,936
補助金の受取額	—	23,476
法人税等の支払額	△74,966	△8,339
法人税等の還付額	—	26,676
営業活動によるキャッシュ・フロー	△320,744	113,394
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△27,153	△681
無形固定資産の取得による支出	△90,180	—
敷金及び保証金の回収による収入	26,086	4,984
投資活動によるキャッシュ・フロー	△91,247	4,303
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	400,000
長期借入金の返済による支出	△176,580	△264,086
新株予約権の行使による株式の発行による収入	6,742	1,624
財務活動によるキャッシュ・フロー	△169,838	137,538
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,741	2,149
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△579,088	257,385
現金及び現金同等物の期首残高	2,953,931	2,374,843
現金及び現金同等物の期末残高	2,374,843	2,632,228

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、クリエイターエンパワーメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しておりません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年3月 1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月 1日 至 2024年2月29日)
1株当たり純資産額	136.70円	148.47円
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純損失(△)	△60.85円	11.76円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—	11.63円

(注) 1. 2023年2月期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年3月 1日 至 2023年2月28日)	当連結会計年度 (自 2023年3月 1日 至 2024年2月29日)
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純損失(△)		
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△) (千円)	△408,318	79,143
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社株主に帰属する 当期純損失(△) (千円)	△408,318	79,143
普通株式の期中平均株式数(株)	6,710,730	6,728,401
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	—	78,583
(うち新株予約権(株))	(—)	(78,583)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含まれなかった潜在株式の概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。